

◇ 地球温暖化はCO₂が本当に原因なのか？

CO₂原因説は肯定派 vs 懐疑派で論争中・・・しかしIPCC第5次報告(9.28付新聞)は、懐疑派を一蹴した内容であった。メディア受け専門家は原発心配無用と公言し、又「温暖化最悪シナリオに待ったなし」と煽る。その真贋を斬る。

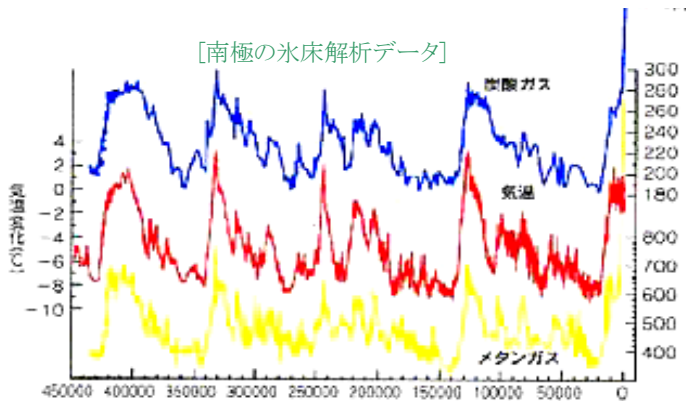


図1 氷河期と間氷期の気温とCO₂,メタン濃度(45万年前より)

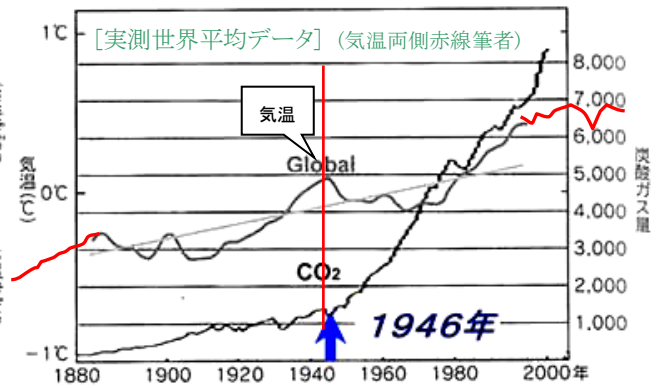


図2 世界の平均気温とCO₂量の推移(1880～2000年)

出典:IPCC第4次報告書より、赤祖父俊一「正しく知る地球温暖化」に掲載を、小出裕章文献(第4話*3)で引用、更にそれをやじ馬が無断借用し手を加える。

図1:現在(0)で気温(赤線)は上下動あるが過去のピークと大差ない。CO₂(青線)は過去のピーク 300→400ppmv に急増、メタン(黄線)も 800ppbv が3倍に急増。気温の振幅は10度もあり、更に上下動しつつ温暖化は急峻に、寒冷化は緩慢に推移する。しかも気温、CO₂、メタン共、挙動が見事に一致する。人的CO₂は全くない時代なのに、である。

図2:CO₂が1946年から急増、気温は図外約1800年から上昇し、CO₂より150年先行する。そして2000年以降は横這い(追加赤線)である。図1もマイクロでは気温先行である。即ち気温が上がる(原因)とCO₂が増加する(結果)のだ。

気候変動周期(図1)は、地球自転や太陽活動によると昔?学んだ。しかし小刻みな上下動を含め、原因は明確でないという。長期予報で今冬の寒暖も当たらないのに、100年先をスパコンで計算しても、入力するデータや気候モデルが、あやふやな科学的根拠なら、結論もしかりである。IPCCはトップ級千人の学者が、1万件近い論文を精査、審議した結論だという。政治と違い多ければ正しいとは限らないし、研究費が左右するとなれば、原子カムラと同じであろうと想像する。ソ連崩壊や原発促進のため、の機関との裏読みも遠からじ・・・深層は別に科学的見地で、やじ馬の結論は『人的CO₂は主原因にあらず、他の要因*1による。CO₂削減しても温暖化は止まらないし、何もしなくても止まる。・・・』いずれにしても今後10、20年もすれば、自然が結果を出してくれる。*1 太陽活動(銀河宇宙線)、エアロゾル等(*2の著書による)地球や宇宙の歴史と営みは、人的CO₂如きで壊れるほど、やわではないとの説を唱える頼りがいのある学者*2もいる。

*2「気候変動とエネルギー問題」(CO₂温暖化論争を超えて)中公新書の著者深井有、それこそ目から鱗である。せめて書店でまえがきだけでも読んでみて欲しい。

◇ 京都議定書破綻と日本

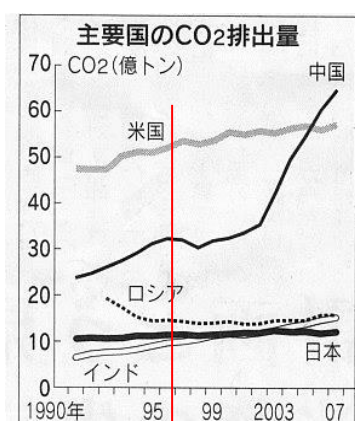


図3 主要国のCO₂排出量推移

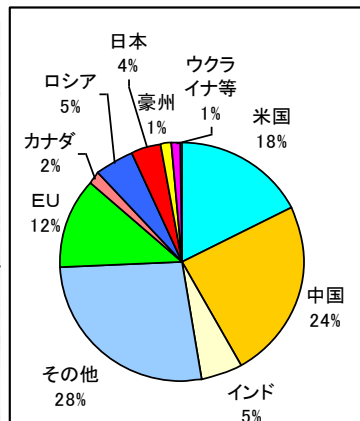


図4 2010年国別CO₂排出シェア (出典:図3は2009.10.2、図4は2013.9.10。共に日経新聞)

1997年京都会議での決め事である。この時新興国は削減義務なし。米国は批准拒否。EUとロシア、日本が90年比-6%でスタート、その後09年鳩山首相(当時)が、20年に-25%を条件付で公約。しかし、フクシマ事故で破綻。12年に期限切れ。公約反故の日本は世界に冷評され、国際的に約束を守れない国は、約束しない国より、当然劣る。更にマスキー法の再来を狙った民主政権は、甘かった。規制にあえぐ企業の海外逃避を促してしまった。新興国で造れば規制を受けないのだから・・・。安倍政権は、第2約束期間を拒否、白紙スタートとした。CO₂原因説は嘘であること、日本シェア(図4)を考慮して、税金のムダ遣い(年1兆円)をやめ、したたかな外交を期待する。

◇ IPCC 第5次評価報告書つまみ食い

最近の気温が横這いなのは、自然のゆらぎと説明し、温暖化はいずれ戻るとIPCCはいう。今世紀末の予測値が前回に比べ、下がったのは精度を上げたため、とも弁解をする。

表1 新聞記事(9.28 朝日)抜粋 (赤字は筆者計算)

	第4次(2007)	第5次(2013)
過去の気温上昇	0.74度(1906～2005年) 0.74/100	0.85度(1880～2012年) 0.64/100
今世紀末の予測	1.1～6.4度	0.3～4.8度

100年間の気温上昇(赤字)は、前回に比べ0.1度下がっている。6年間CO₂は増え続けていたののである。さらに報告書は今年の猛暑や異常気象も温暖化(人的CO₂)によるとしている。確かに、CO₂に関係なく海水温の上昇は免れない。エル・ニーニョやラ・ニーニャ現象、更に原発も大きな要因であることを忘れてはならない。やじ馬は、温暖化の影響だが大気対流(高気圧W居座り)や、海水温上昇による水蒸気多発(積乱雲)が主原因で、CO₂によるものではない。との懐疑派の説に賛同する。

参考資料:肯定派・懐疑派のネット情報や書籍多数。特にIPCCデータを精査したブログ、井上雅夫「二酸化炭素は本当に地球温暖化の原因か?」全242Pに及ぶ大作で大変参考になった。前述*2同様に一読を進めたい。(13.10.1 第5話)